



# 楓こころのホスピタル

(平成29年1月30日訪問)

平均在院日数273.2日 (平成28年12月31日時点)

## 積極的な取り組みなど

- 4階病棟では、詰所の扉は開いていて、患者が声を掛けやすくなっていた。
- 意見箱のそばに、人権擁護委員会に意見が届き、検討される経緯の説明が貼られていた。

## 前回の訪問(平成23年4月)から改善されていた点、未改善点等

- 前回訪問時、4階病棟では、詰所の小窓も扉の鍵も閉まっており、患者から声の掛けにくい状態だった点について、今回は、詰所の扉は開いていた。

## 病院全体

### 人権擁護委員会・意見箱

人権擁護委員会の委員長は院長で、月1回開催。意見箱は、外来と各病棟のデイルーム近くの仕切られた場所に設置されていた。デイルームには「意見箱だより」という意見への回答が掲示されていた。

### 診察・薬

診察は基本的に診察室で行う。診察時には診察室の前に椅子を出し、患者は座って並ぶ。薬は職員が訪室して渡す。

### 入浴

週3回。身体介助が必要な患者は週2回。

### 金銭管理・必要品の購入

金銭管理料は108円/日。整理ダンスには鍵のかかる引き出し(無料)があった。院内売店がないため、シャンプー等の購入は、詰所で商品名が書かれた小さな紙をもらい、申し込む。

### 面会

面会室は、テーブル毎の仕切りではなく、2組が同時に面会することになる。面会室前には面会室がいっぱいのときに待つための椅子がいくつか置かれていた。

### PSW・退院支援

PSWは外来の受付奥(事務所内)にいる。面談は外来にある相談室2室を使う。PSWは6名で、病棟担当が4名、デイケア担当は2名。

医療保護入院者退院支援委員会の退院後生活環境相談員はPSW、療養病棟の退院支援相談員は看護師。

田尻町と泉佐野市からの委託で、南海泉佐野駅近くの商店街で相談支援事業と地域活動支援センター事業を行っている。グループホーム利用者は35名で、府営住宅等を借りて12ヶ所で実施している。

## 病棟の様子

### 電話

デイルームの近くで、仕切られた場所にあった。携帯電話は詰所で預かり、病棟外で使用できる。

### デイルーム

飲物とお菓子の自動販売機があった。壁の所々に患者の作品(絵等)が飾られていた。

## 2階病棟 開放 男女 精神療養 54床

54名中45名は身体的介助が必要で、この45名は自分で洗濯できないことを理由に、病院のリースの服を着用していた。自分の服を管理して着ている患者は、お金もテレホンカードも自己管理している。

### 患者の声

「9年入院してる」「塗り薬がなくなったので明日もらう。以前は月に1回外出だった、今は1日1,000円でやりくりしている」「PSWは〇〇さん。話しやすい」

## 3階病棟 開放 男女 精神一般 48床

直接この病棟に入院し、退院する患者が多い。殆どの患者が長くて3ヶ月位で退院するが、高齢の患者は入院期間が長期化する傾向にある。患者48名中20名程が車椅子を使用しており、以前よりも介護が必要な患者が増えている。早めに退院できるように、SSTやデイケアにつなげ、生活力をつけてもらうとのことだった。

### 患者の声

「入院して1ヶ月。退院後のことが不安。外泊はしている。外出はスーパーにお菓子を買いに行っている。お金は病院に管理をしてもらっている。退院したら、役所で金銭管理をしてもらう。あと4日で退院する」「今回入院して4年。ここには何度も入院している。PSWは知っている。でも、ここにはあまり来ないから、なかなか会えない」



## 4階病棟 閉鎖 男女 精神一般 48床

入院受入病棟。入院期間は2日～約20年と幅広い。外出許可は19名に出ているが、病院外の店まで買物に行くのは、そのうち5名。敷地内の庭を歩いている患者が1名いたが、訪問時期は寒かったため、散歩は建物内でよいと言う患者が多いとのことだった。

訪問時はデイルームで患者約20名が輪投げ等のゲームに参加し、にぎやかだった。隔離室は2名利用中で、うち1名は、詰所にあるホワイトボードに拘束中と書かれており、室内で家族と面会をしていた。

### 患者の声

「薬は注射を打たれるのが怖い。早く退院したい」「月に1回位、レクがある。いつもある訳ではない」「看護師は優しい時とそうでない時がある」「CWや主治医の名前は知っている。早く退院させて欲しい」「入院して1年半位。医療保護入院。お小遣いは詰所で預かってもらっている」「輪投げはストレス発散になる。CW・看護師は優しく応対してくれる」「外出はオーフワまで毎日行って、買物をしている。金銭管理は自分でしている」

## OT(作業療法)室

2階病棟の患者がトランプ・ジグソーパズル・塗り絵をしており、職員が付き添っていた。新聞を読んでいる患者や畳スペースで寝転がっている患者もいた。

### 患者の声

「41年間入院」「同室の患者がうるさい」「病気で糖分制限されていてジュースは買って飲めない」

## 検討していただきたい事項

### 退院に希望の持てる情報提供を

2階病棟の患者からは「退院の話？無いな。足が悪いしできないと思う。住むところもないから」、3階病棟では「主治医に『退院するか』と言われたが断った。前はグループホームに居たんだけど自分は足が悪いから退院できないと思う」、4階病棟では「退院の目途については、先生と話せていない。PSWは知っている」「退院したい。グループホームでやりたい。先生には話せていない」「16年間入院」「25年入院している」「状態が安定しないので退院できない」「医師と退院の話はしない」「早く退院したい。いつ退院できるかはっきりとは決まっていない。任意入院にして欲しいと頼んでいるが、返答はまだない」「親に迷惑を掛けたくないから一生病院にいる」との声があった。

(1) 退院して地域で生活することを可能にする、様々な情報を積極的に提供していくことを検討していただきたい。(病院:月1回の院内茶話会やさまざまな機会を捉えて情報提供しているつもりですが、医師・看護・PSW等の連携を強化し、いろいろなツールを利用するなど今後さらに工夫しながら退院に向けての情報提供に努めていきたいと考えています。)

(2) 入院治療の目的と治療方針及び入院期間の目途等について、患者が十分に理解し納得できるように説明をしていただきたい。(病院:今後さらに適切に入院治療の目的と治療方針及び入院期間の目途等について説明していきたいと考えています。)

### 患者の声を聞く姿勢を

2階病棟の患者からは「(整理ダンスの)鍵をなくしてしまった。鍵の費用を払って鍵を持ちたいけど、これって師長に言えばいいのかな?」「困ったことを相談するにもなあ…看護師はいつも忙しそう」「診察はベッド横です。思ったことゆっくり話すって言ってもな…(病室を見まわして他の患者を気にしているようだった)」などの声を聞いた。患者が自分の要望、質問等を職員に聞いて欲しいという気持ちが伝わってきた。(病院:訪問の後、患者から鍵紛失の報告あり、合鍵を渡して自己管理していただいている。数回接遇研修を行ってきて、話しかけやすい雰囲気を心がけていたつもりですが、十分でなかった点を反省し、話しかけやすい雰囲気を出すにはどうしたらよいか等について研修を行っていく予定です。)

### 自由に飲めるお茶の設置について

病院からお茶が提供されるのは食事時間のみで、理由は多飲水傾向の患者がいるからとのことだった。複数の患者から「のどが乾いたら水道の水を飲む」との声があった。(病院:病棟内に飲料の自動販売機(100円)があり、また希望者には1日3回260円のジュースクラブという制度を設けており、水道水を飲むよう勧めているわけではありません。安全管理などのほか多方面から熟考し、自由に飲めるお茶の適切な提供が可能であるか検討していきたいと考えております。)

### オムツの姿の患者が廊下から丸見えだったことについて(2階病棟)

オムツ姿で横になっている患者がいたが、カーテンは閉じられておらず廊下からも見えていた。(病院:脱衣行為を繰り返すためその都度声かけをし着衣を促したり、カーテンを閉めるように関わっても繰り返し開放されます。ドアの外から見えにくいようなベッド配置も提案していますが、こだわりが強く実現できていない状況です。さまざまな手段や関わりを試行錯誤しながら実行し、解決していきたいと考えています。)

### 患者のプライバシー保護や個別対応と管理のしやすさについて

2階・3階病棟ではデイルームのテーブルには、その場所に座る患者の氏名を書いたテープが全員分貼られていた。(病院:テーブル位置がわからない方、希望される方に対応しており、全員には貼っていません。高齢の患者や認知症の患者には、トラブルを避けたり、自分の名前を見て安心されるというメリットがあると考えています。)

### プライバシーへの配慮

(1) 4人部屋が中心で、ベッド周りには、カーテンは2床ごとで囲われていた。同じカーテンで囲まれた隣り合う2床の間には高さ約130cmの整理タンスが置かれていたが、ベッドで着替える場合は隣の様子が見えてしまう。カーテンは開けてある部屋が殆どだった。(病院:カーテンの適時開閉については適切な使用方法を案内しています。)



2ベッド間のカーテンについては検討していく考えです。)

(2) 4階病棟(男女混合病棟)では、女性用洗濯物干場に、女性用ショーツ数枚等が干してあるのが通路から丸見えだった。(病院:窓ガラスに目隠し用のフィルムを貼る等の対応をとっていきます。)

## 外出の機会を

3階病棟の患者は「外出を本当は一人でしたいんだけど、外出のカードを持っていないから単独外出できない。これは先生に尋ねたらいいのかな?」「外出しないから、お金を使うこともない。買物に行きたい」、4階病棟では「ベルを押される回数が多く事務所対応に困るので、外来フロアへの通用扉の解錠は4月2日以降は午前中の解錠希望には対応せず、13:00~17:00までにする」との貼紙があった。(病院:外出のカードは、任意入院で単独外出可能な患者全員に渡しています。外出する際に詰所の看護職員に伝えることは一種の制限にあたるかもしれないとの考え方から導入した方法です。外出される患者はこのカードを詰所前のカードケースに入れ、そのままエレベーターに乗って1階に行き、外出用の出入り口(9時~17時開錠)から外に出ることができます(敷地の外にも)。外来フロアへの扉は午後からの開錠で、入院患者が外来患者の待合スペースを占領するというトラブルを回避するためです。退院後の社会生活のために外出支援は必要であると考えます。これまででも外出支援も行ってきたところですが、これまで以上にこれに取り組んでいきたいと思います。)

## トイレについて

(1) 3階の女性トイレでは尿臭が漂っていて、便器は汚れていた。(病院:毎朝の清掃と、汚染があれば適宜清掃を行うようにしており、尿臭が強いときは消臭スプレー等で対応しています。気分よく、落ち着いてトイレを利用できるよう点検を密に行っていきたいと考えております。隠れタバコによる便器の汚れについては、取り替えも含め検討していきます)

(2) 3階の女性トイレの1つはドアの上部分の留め具(蝶番)が壊れていた。(病院:修理します。)

(3) 2つの個室の鍵が、開いていても施錠中を示す赤い表示になっていた。(病院:改善します。)

## 公衆電話の使いやすさ

各病棟の電話の前にお菓子の自動販売機があり、販売機が出っ張っているため、車椅子は入りにくそうだった。3階病棟の電話の前

には電話利用者用の椅子の後ろにもう一つ椅子が並べられており、2つの椅子を動かすことが困難な状態だったため、患者が利用者用の椅子に座って電話をしたり、車椅子の患者が車椅子に座ったまま電話をするのは難しそうだった。(病院:通常は電話の前に椅子は一つだけおいており、問題なく電話できるようにしています。椅子を移動させがちな患者がいるときは、見回りを頻回に行ななどします。)

## 意見箱の使いやすさ(3階病棟)

意見箱の前のスペースに床頭台が置かれていた。(病院:職員教育を徹底し、人権擁護委員会としても月1回の定例会の後に不適切な事例がないか院内巡回を行うこととしました。)

## 備品の状態の再確認を

(1) OTで使用されていた色鉛筆は短くなっているものが多く1~2cmの長さで、患者から「(色鉛筆を)握むのに苦労する」との声があった。(病院:適切な長さの鉛筆に入れ替えるよう指示し、すでに対応済み。)

(2) 2階病棟の機能訓練室にある椅子は、座面のスポンジが剥がれているものが多数あった。(病院:院内の備品を再点検し、改善していきたいと考えております。)

### 精神保健福祉資料より(平成28.6.30時点)

149名の入院者のうち統合失調症群が80名(54%)、気分障害が36名(24%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が30名(20%)。入院形態は任意入院108名(72%)、医療保護入院 41名(28%)。在院期間は1年未満が60名(40%)、1年以上5年未満の患者が52名(35%)、5年以上10年未満の患者が17名(11%)、10年以上20年未満が14名(9%)、20年以上が6名(4%)。



扉よひらけ⑦

大阪精神科病院事情ありのまま 2015

クリック

210ページのうち 192ページ ほどは 大阪府内の精神科病床のある全病院への訪問活動の報告です。

A4 サイズ / 210 ページ  
2,000 円

## 目次

- ・大阪における精神科病院への訪問活動のうつりかわり
- ・療養環境サポーター制度について
- ・各病院の訪問報告
- ・各病院の職種別職員数一覧表
- ・精神科病院訪問ボランティアへのインタビュー
- ・入院中の精神障害者の権利に関する宣言

療養環境サポーター  
最新報告

## 人権センターニュース毎号 2 病院掲載中

## 入会やご寄付のおねがい

私たちの財政的基盤の中心は「会費」や「寄付」となります。活動を維持し、充実させるためには、皆様からの支援が必要となります。



電話・面会相談では相談者の方からお金を頂いておらず、訪問活動（療養環境サポーター制度）でも大阪府等から委託費用の支払はありません。特に面会活動の拡充のためには、交通費（1回 2,000 円～4,000 円／2名分）や複数の事務局スタッフの人事費（年間約 500 万円）が必要となります。

## 会費・寄付の申込と支払方法

ご寄付もいつでも受付けています。

## 会員種別

年会費

障害者	1,000 円
個人	3,000 円
団体	5,000 円

特別協力会員  
大募集

A	10,000 円
B	30,000 円
C	50,000 円

## 会員特典

人権センターニュースの送付

2か月に1回 年間6冊

人権センターニュースは、「声をきく」ことを重要な価値観とする私たちだからこそ発信できる情報が盛りだくさんです。また、病院訪問報告書も毎号2病院掲載しており、大阪府内の病院の療養環境の改善状況等をることができます。当事者・家族の皆様だけでなく、精神科病院に勤務する皆様や地域精神医療保健福祉にかかわる皆様にも必見です。



メルマガ配信 1か月に1回から2回

精神医療及び精神保健福祉にかかわる最新ニュースや私たちの講演会・セミナー情報等をいち早くお知らせします。

活動参加の方の情報提供

面会活動だけでなく、講演会の企画・運営や広報誌・SNSによる情報発信のサポート等いろいろな形で参加できます。

※面会活動は養成講座の受講が条件となります。

## 寄付特典



税額控除とは？

ご寄付をしても  
税額控除を受け  
られる場合、  
確定申告によって  
『税額控除』を受ける  
ことができます。

\*確定申告は最寄りの税務署に  
ご相談ください。\*大阪府（本市を除く）に在住  
の方は、地方税のみ控除されます。\*控除には限度額があり、実際の  
税額はケースにより異なります。

10,000円のご寄付で、2～3名の面会が可能になります。

寄付金 1万円の時

所得税額 -3,200円

実質負担  
6,800円

寄付金 5万円の時

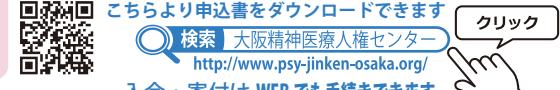
所得税額 -19,200円

実質負担  
30,800円郵便払込 口座番号 00960-3-27152  
加入者名 NPO 大阪精神医療人権センター

銀行振込 三井住友銀行 南森町支店 普通 1485805

現金 講演会会場・事務所にて

クレジットカード ウェブサイトのみ



こちらより申込書をダウンロードできます

検索 大阪精神医療人権センター

<http://www.psy-jinken-osaka.org/>

入会・寄付は WEB でも手続きできます。



## 認定 NPO 法人大阪精神医療人権センター

お問い合わせ

〒530-0047 大阪市北区西天満 5-9-5 谷山ビル 9F

TEL 06-6313-0056 FAX 06-6313-0058 メール [advocacy@pearl.ocn.ne.jp](mailto:advocacy@pearl.ocn.ne.jp)